

学校行事参加からの登校について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校から休日の活動による影響により月曜日に体調不良になり、欠席することが多かった。中学入学後も引き続き月曜日に休みが多くなっていた。また、学習の遅れや友人関係が気になり、学校から足が遠のき、欠席が続いた。

具体的な取組

○オンライン授業配信

所属クラスの授業をオンライン配信した。担任だけでなく、生徒も協力し、理科室等の教室移動や体育館の学年集会の際も機材を運搬して配信した。支援委員会では、別室登校を第一とし、慣れたから教室登校する方針にした。

○保護者との連携

特別支援委員会等でアセスメントを行い、保護者を支えることが最終的には生徒の心の安定につながると判断した。具体的には、学校から電話等での連絡を密にすることで、保護者との信頼関係を築いた。さらに、保護者の訴えに傾聴し、不安が解消できるように努めた。

○友人の働きかけ

特別支援委員会で、友人の連絡が生徒、保護者の心の安定に好影響を与えると判断した。担任が、ことあるごとに友人の生徒に声をかけ、当該生徒に働きかけるようにした。そうすることで、生徒の心身の安定につなげた。

○行事参加による登校刺激

友人の働きかけにより、運動会、宿泊行事等の参加に意欲を示した。そのため、行事に関係する練習や学活、学年集会へ参加することができた。また、週1回程度教室での授業にも参加できた。



成果

友人を通し行事参加を促し、参加することにより自信を付けることができた。また、自己の進路に対しても積極的に考えることができた。進路関係の授業に参加するために教室へ入ることができた。

課題

安定した状態で自己の進路を決定できるよう指導・支援を続けるなど、更なる手だてが必要である。

不登校生徒に対する支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 3 年生である。中学校 2 年生の 1 学期まではほとんど欠席はなかったが、2 学期に入り人間関係や勉強に対する不安、大勢の人間がいる環境が辛いこと、良い子でいなければならないことへのプレッシャーを感じることを訴え、休み始めた。

具体的な取組

○組織力の向上

毎週 1 回、生徒指導連絡会を開催して、校長、副校長、生活指導主任、不登校担当教員、各学年生徒指導担当、SC、特別支援教室専門員で不登校生徒の状況の情報交換と対応について検討し、各教員から会に参加していない学年の教員へ情報の共有を行った。

○校内別室のルール

- ・水、木、金の 10 時から開設している。
- ・登校することへの抵抗を減らし本人のペースで登校できる。
- ・取り組む内容は別室対応学校生活サポーターと相談して決める。
- ・日記のやり取りや話を担任とできる。

○学校行事への個別対応

他の生徒に見られない様に学校行事を見学する。

- ・始業式、終業式、生徒会役員選挙などを別室や体育館の後方で参加する。
- ・運動会を別室利用の生徒と校舎の教室から見学。
- ・学芸発表会を家族室から鑑賞する。



○魅力ある学校づくり

- ・不登校並びに不登校傾向が心配な生徒のための保護者会を開催する。
- ・コミュニケーションタイムを実施する。
- ・生徒会主催の「心のクリーンキャンペーン」「生徒会レク」を実施する。
- ・「不登校」ということについて、他の生徒に知ってもらうために、学びの多様な学校の生徒が学芸発表会で自作の劇を上演する。

成果

校内別室に登校する生徒が 5 人になり、それぞれの登校日数が増えた。日記を通して、担任とのコミュニケーションをとることができた。学校全体に不登校生徒の気持ちが伝わり、当該生徒にも明るい笑顔が見られた。

課題

より多くの不登校生徒に校内別室の良さを伝え、学校に来ることへのハードルを下げる。

活動場所の確保と、開設日及び時間を広げることが課題である。